

# 曇雨天に対する農作物の技術対策

平成28年9月28日  
農業技術課  
農務事務所

9月中旬以降、曇雨天が続いています。今後一週間ほど同様な天候で推移する可能性が高くなっていますので、農作物の管理に十分注意してください。

**関東甲信地方週間天気予報**

平成28年9月27日16時30分 気象庁予報部発表  
予報期間9月28日から10月4日まで

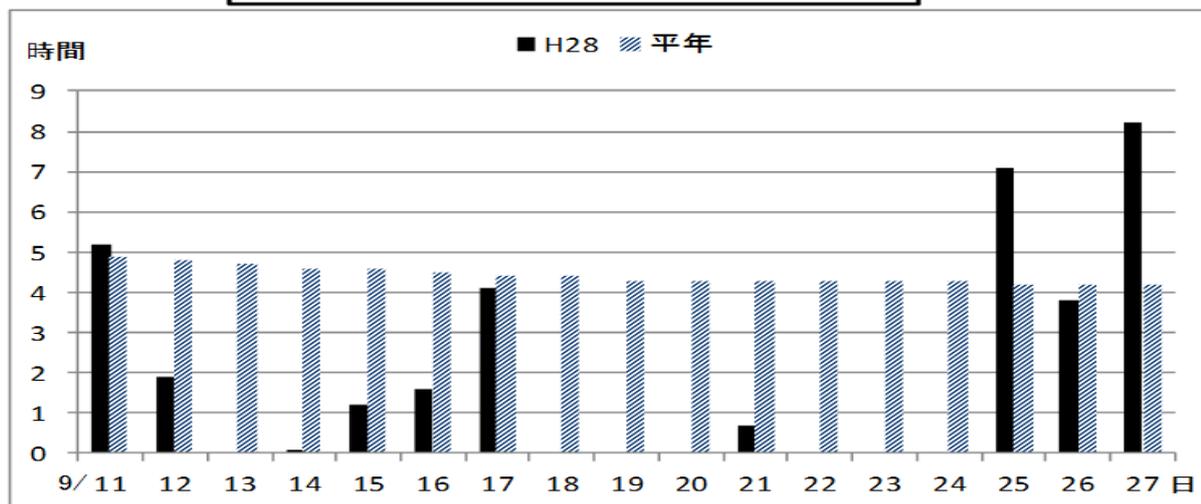
向こう一週間は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。  
最高気温・最低気温ともに平年並か平年より高く、かなり高くなる日もある見込みです。  
降水量は平年並か平年より多いでしょう。

## 1 週間天気予報（9月28日～10月4日）

9月28日5時 山梨県の週間天気予報

日付	28 水	29 木	30 金	1 土	2 日	3 月	4 火
山梨県 <small>府県天気予報へ</small>	曇のち雨 	曇時々雨 	曇 	曇 	曇 	曇 	曇 
降水確率(%)	-/30/50/50	30/60/60/20	40	40	30	40	40
信頼度	/	/	B	C	B	C	B
甲府	最高(°C)	28	24 (23~27)	25 (22~28)	28 (26~33)	27 (24~31)	28 (24~32)
	最低(°C)	/	14 (13~18)	17 (16~19)	20 (18~22)	20 (18~22)	19 (17~21)
平年値	降水量の合計		最高最低気温				
			最低気温		最高気温		
甲府	平年並 18 - 50mm		15.7 °C		24.4 °C		

**甲府の日照時間(H28年と平年との比較)**



## 2 農作物の技術対策

### 《共通》

冠水、滞水の恐れのあるほ場では、ほ場内に排水路を設置する。また、ほ場内への浸水を防ぐため、排水溝を点検、補修、整備する。

### (1) 果 樹

#### <ブドウ>

- ① 棚面の受光条件改善のため、特に収穫前及び収穫中の品種では、誘引の見直しを行う。
- ② 裂果や晩腐病等が発生している園では、腐敗や二次感染を防ぐため、ほ場を巡回し裂果粒や発病果粒は速やかに摘粒し、園外へ持ち出すか土中に埋める。
- ③ 収穫後も葉を健全に保つため、防除暦を参考に慣行防除を徹底する。特に、欧州系ブドウでは防除を徹底する。
- ④ 同化養分の浪費を防ぎ、食味の向上や新梢の充実を図るため、旺盛な新梢を摘心したり、伸びている副梢を2～3枚残して摘心する。ただし、邪魔にならない副梢はそのままにしておく。

#### <立木果樹>

- ① 日照不足により翌年の結果枝の充実不良が心配されるので、樹冠内部や園全体が暗い場合は、徒長枝の摘心や剪除により明るさを保つ。
- ② 防除暦を参考に予防散布を徹底する。

### (2) 野菜・水稲

#### <野菜>

- ① ナス、トマト、キュウリでは、疫病、褐色腐敗病、べと病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株、病葉、病果の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。
- ② 葉根菜類では、べと病や軟腐病などの病害が発生しやすくなるので、適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。
- ③ トマトでは、着果安定を目的にホルモン処理を行う。処理は出来るだけ晴天時の午前中に行い、花房（蕾や新芽）には散布しないよう注意する。また、空洞果やトガリ果の発生を助長するため2度処理はしない。
- ④ 夏秋ナスでは、着色を促進するため密生部の枝を抜いたり、下葉の摘葉を行うとともに、葉面散布や追肥等適正な施肥管理に努め、草勢の維持と促進を図る。

#### <水稲>

- ① 収穫時期が近づいているほ場については、排水対策に努める。
- ② 収穫は、出穂期からの日平均気温の積算温度950～1100℃を目安に、ほ場ごとに黄化した籾の割合（85～90%）を確認し、適期に行う。

### (3) 畜産

#### <飼料作物>

- ① 飼料作物については、排水不良が懸念されるほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。
- ② 天候に応じ、迅速に必要な作業が行えるよう、機械の共同利用・共同作業等の体制を整えておくとともに、良質な粗飼料が確保できるよう努める。